

としょかん宇治

No. 61

2008年9月1日発行

宇治市中央図書館
〒611-0023 宇治市折居台1-1
0774 (39) 9256

宇治市東宇治図書館
〒611-0011 宇治市五ヶ庄三番割36-5
0774 (39) 9182

宇治市西宇治図書館
〒611-0042 宇治市小倉町山際63-1
西小倉地域福祉センター3階
0774 (39) 9226

「ひとりものがたり」が

伝える世界

源氏物語千年紀によせて

六嶋 由美子(語り部アーティスト)



▶「ひとりものがたり」を語る六嶋由美子さん(右)

世界的に名高い「源氏物語」の存在が世に出て千年。これを機に、昨今は、さまざまな関連商品やイベントが目白押しです。改めて「源氏物語」の不滅の力に目を見張る思いです。

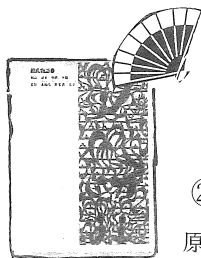
私は、数年前から「ひとりものがたり」と名づけて古典の語りをしています。お化粧をして、時代装束を着けて、長い髪のカツラをかぶって、檜扇ひおうぎを手にすれば、千年前の姫君のできあがり。琴や笛の音に乗せて、みやびな世界を語ります。

もちろん最初から十二単ひたえのお姫様になっていたわけではありません。物語をはじめたきっかけは、町内の高齢者さんの会食会の余興。食事の後に何か出し物を、と依頼されました。そこで、平安末期の説話集「今昔物語集」の中から、夫婦の情愛をテーマにした短い話を語りました。ラジオ世代の方は聞き上手。言葉を聞いて情景をイメージする力に長けていらつしやる。

「乾いた砂に水がしみこむよう。」とはまさにこのことで、手ごたえは語り手自身にじかに伝わります。それまでは、幼児向けに、人形劇や紙芝居でお話を伝えていました。「語り」は、人形や絵などの媒体を取り去って、言葉だけで観客と向き合います。素晴らしい一体感。その場限りで消えてしまうものだから、よけいに貴重でいとおしい。以来、すっかり物語の醍醐味だいごみにはまっています。

古今東西、いろいろな物語がありますが、どうせやるなら非日常。現実とはかけ離れた古典が良い。ご当地宇治は、「源氏物語宇治十帖」の舞台となったところです。ゆかりの看板や石像があって、市民にはなじみ深いところですが、「源氏物語」の内容は詳しくは知らないという人が意外に多いのです。世界一の小説の最後の舞台となったところが宇治。その宇治に住んでいながら、「源氏物語」を知らないのはもったいない、と思うのです。

千年紀は、今まで古典に関心の無かった人が「源氏物語」に親しむまたとない機会となりました。「難しいから」と敬遠せずに、気軽に古典を楽しんでください。「ひとりものがたり」がその一助になれば幸いです。



原文を読みたい人へ

【新編 日本古典文学全集】

⑳～㉔ 小学館刊

原文、現代語訳、注釈がついている。各帖の冒頭に、あらすじが記され、各帖の巻名の由来も載せられている。絵も多いのでわかりやすい。



現代語訳を読みたい人へ

* 刊行順に紹介します

明治末期

与謝野晶子『源氏物語』

原文を刈り込んだ口語訳。口語訳といっても現代のそれとは異なるので、少々難解かも…。

昭和

谷崎潤一郎『新々訳源氏物語』

原文に忠実でありながらも、優しい語り口調になっているのが特徴。長々しい原文を読みやすい現代文で表現している。

円地文子『源氏物語』

訳者の作家としての想像力が、原文に多く加わった、独自色のつよい源氏物語。



短時間で源氏物語の全体を知りたい人は



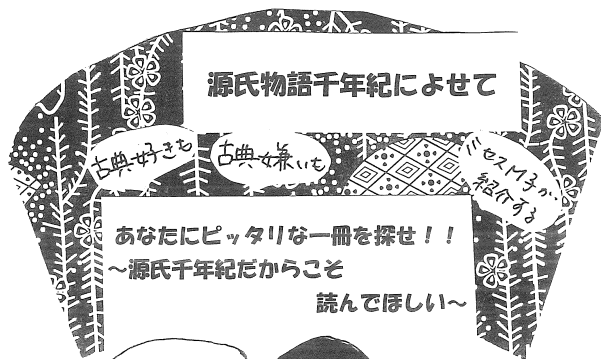
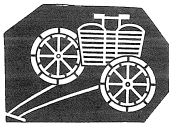
『まろ、ん?』 小泉 吉宏

まろん (栗) 顔の光源氏が登場し、四コマまんがの形式で物語全 54 帖をポイントをおさえて紹介している。

『源氏物語への招待』

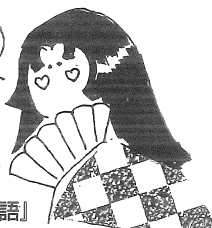
新人物往来社 刊

光源氏をとりまく姫君ごとにその関連と役割を紹介している。イラスト満載で、すばやく全体像がわかる一冊。



光源氏さま♡

ミセスのわたしのさしづめ藤壺Oo。



田辺聖子『新源氏物語』

現代小説により近くなった読みやすい訳。訳者自身の解説も入り、古典になじみのない読者にも適している。

瀬戸内寂聴『源氏物語』

あくまで原文に忠実でありながら、主語・述語を明確にした、誰もが読みやすい源氏物語。

橋本治『薫変源氏物語』

光源氏が一人称で語る異色の訳。宮中の恋物語よりも、平安の貴族社会を生きる男の心理がよくわかる。



いろいろな角度からみる源氏物語



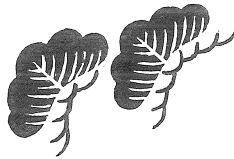
『季語で読む源氏物語』 西村 和子

物語に深くかかわる季節の描写に着目した一冊。数多く登場する和歌の意味を深く理解できる。

『源氏物語の京都案内』

文春文庫

各帖ごとに物語の舞台になった京都の名所を案内するとともに、京都ならではの源氏に由来する銘菓も紹介している。



ここでは、すぐろくでおなじみの本好き主婦、ミセスM子が独断で選んだ図書を紹介させていただきました。

図書館に所蔵していますので、どうぞご利用ください。(貸出中の場合は予約をお願いします)

このほか、平安時代の風俗・習俗を紹介した図書から、源氏物語の研究書まで、宇治市の図書館では源氏物語関連本を多数所蔵しています。千年紀にあたる今年、ぜひ源氏物語の世界にひたってください。

「ひとりものがたり」の会

～閉館後の図書館で

平安の恋が咲き乱れる～

今から千年前、「源氏物語」が初めて世に知られました。それは、世界最古の長編小説であり、卓越した文学作品であるだけでなく文学、美術、工芸、藝能など、その後の日本が独自の文化を形成していくうえで、もっとも重要な源泉のひとつとなりました。

そこで、宇治市の図書館では、市民の方々に「源氏物語」により一層親しんでもらおうと、語りと楽器での「ひとりものがたり」の会を開催することになりました。

また同時に、「源氏物語に関する図書・資料の展示」も開催します。

どうぞ皆さんの、多数の来館をお待ちしています。

第1回 平成20年9月10日(水) 午後6時 東宇治図書館

「若紫」：六嶋由美子(語り)・柴田高明(マンドリン)



十八歳の光源氏は、春の北山で偶然に十歳くらいの美しい少女に出会い、恋しい藤壺に面影が似ているのに驚く。藤壺の姪だと分かり、源氏は強引に少女を二条邸に引き取ってしまう。少女は次第に源氏に打ち解けて馴染み、妻となる。

〈光源氏の終生の伴侶となる紫の上の前半生を乳母の少納言が語る〉

第2回 平成20年10月8日(水) 午後6時 西宇治図書館

「六条御息所」：六嶋由美子(語り)・野中久美子(能管)



六条の邸宅で優雅に暮らす未亡人、御息所は七歳年下の光源氏を通わせていた。やがて源氏の訪れは途絶えがちになる。深く思いつめる性格の御息所は、生霊となって源氏やその周りの女君を苦しめる。

〈源氏との執着を断ち切ろうと、御息所は伊勢下向を決意し、秋の嵯峨野で源氏と最後の別れをする〉

第3回 平成20年11月9日(日) 午後6時 中央図書館

「浮舟」：六嶋由美子(語り)・葉衛陽(中国琵琶)



大君の死後、傷心の薫は大君に瓜二つの浮舟に心を寄せて宇治に住まわせる。匂宮も浮舟の元に通ってくるようになり、二人の貴公子に愛され苦しんだ浮舟は宇治川に身を投げるが、僧都に助けられて出家する。

〈幽玄な宇治の川霧の中をさまよう浮舟が、波乱の身の上を語り、やがて仏道に救いを見出す〉

※「想いびと」への手紙の表彰式も行います。

※全日とも通常の図書館業務は午後5時で終了いたします。

〈源氏物語に関する図書・資料の展示も開催します〉

東宇治図書館：平成20年9月9日(火)～9月23日(祝)

西宇治図書館：平成20年10月1日(水)～10月16日(木)

中央図書館：平成20年10月28日(火)～11月16日(日)



源氏物語 千年紀
紫のゆかり、ふたたび



宇治寒し

名所も見ずに

煮売屋へ

宇治めぐりを思い立った一行は、まずはやはり古来歌に詠まれた宇治川へ。しばらくはあたりを逍遙したであろうが、あまりの寒さに思わず近くの煮売屋に駆け込む。酒のぬくもりがからだに染み渡り、ようやく心地ついた。が、そういえば目的地の名所はまだ一つも見えていない。

表題に掲げた句は、こんな情景をうたったものではないだろうか。人びとの様子が目にうかぶようである。詠んだのは、俳人・高浜虚子。今からちょうど百年前、明治四一年（一九〇八）正月のことだが、現地での作ではないという。

虚子は明治七年（一八七四）四国は松山生まれ。同郷の正岡子規に師事し、大正・昭和期の

俳壇隆盛の基礎を築いた人物である。昭和三四年（一九五九）に没するまで活動の拠点はもっぱら東京なのだが、京都は彼が

はじめて郷里を離れて学生生活をおくった思い出深い土地であった。休日には、「草鞋脚絆（わらしきやはん）」で足繁く京都近郊の名所探訪に出かけた。明治二五年から二年あまりのことというから、宇治にはまだ汽車もおとっていない。奈良街道、あるいは宇治川堤を経て到着した頃には身体が芯まで冷え切っていたようだ。句は、こうした経験をもとに、時を経て詠まれたものである。

秋風や

宇治の柴舟

今もなほ

東京で一家を成した後も、たびたび第二の故郷京都を訪れ、おびただしい数の句を詠んでいる。それらを合わせると宇治に関するものは四〇句。和歌や『源氏物語』など古典文学を下敷きにした作品が多く見られるのは、歌枕の地ならではの。「秋

風・・・」の句も、浮舟をとぶらう薫が見た当地の情景がしばれるという。千年の時を経て、今も「柴舟」が川の流れにしたがい下っていく。そうした感慨を詠んだものだ。虚子の一句からも、紫式部の残した作品が、後世の著作におよぼした影響の一端がうかがえる。

宇治そして京都と虚子との関わりについては、『西村和子著』『虚子の京都』に詳しい。見慣れた風景の新たな楽しみ方を教えてくれる。



宇治川を下る柴舟

利用案内

- ・市内に在住、または市内に通勤・通学されている方なら、貸出券を作ること
- ・で一人十冊三週間、本が借りられます。
- ・貸出券は全館共通です。図書館で借りた本は市内のどこの図書館へも返却することができます。

- ・図書館は九時から十七時まで開館しています。休館日は毎週月曜日、第四木曜日（いずれも祝日の場合は翌日）、祝日の翌日（土・日曜日の場合は平日に振替）、年末年始です。

- ・予約された本を市内四カ所の公共施設（木幡公民館、槇島コミュニティセンター、南宇治コミュニティセンター、開地域福祉センター）で受け取ることができます。毎週一回、木曜日の午後

- ・に搬送します。
- ・図書館で借りた本は公共施設へ返却することはできません。

あとかき

にぎやかだった図書館も、夏休みが終わると子供達の姿も少なくなりそうです。ちよっぴり寂しい感じがします。

これからは、読書の秋。じっくり本を読んでみるのも、心のリフレッシュになるのではないですか。

みなさんのご来館を、お待ちしております。